

「こおりやまの米」通信



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」

令和5年6月26日

編集:郡山市
JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)
NOSAI福島中央支所 (TEL. 024-933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)
発行:郡山市農作物生産対策協議会
(郡山市園芸畜産振興課 TEL.024-924-3761)

2 栽培をゼロに



生育状況速報(6月20日現在)

1 生育状況

(1) 肥料・農薬展示ほ場・作況ほ場の生育状況

田植え後の安定した天候により、活着は概ね良好で生育は順調です。6月20日に行った各ほ場の調査結果は、以下の表のとおりですが、移植時期の違い等によりばらつきがあるので参考程度としてください。

調査結果は、平年に比べ草丈は並からやや長く、茎数は並からやや多く、葉色は並からやや濃い状況です。また、斑点米カメムシであるアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメが、数は多くありませんが各地で確認されました。

(2) 福島県農業総合センターの生育概況

作柄解析試験(慣行栽培、5月15日移植)の6月20日現在の生育は、平年に比べ草丈はやや長く、茎数、葉齢は並みで、葉色はやや濃い状況です。

2 今後の管理

有効茎を確保(有効茎数の8割を視認できる)していないほ場では浅水管理を継続し、有効茎を確保したほ場は速やかに中干ししてください。

異常還元(ガス湧き)が見られるほ場では、一時落水や間断かんがい等により土中に酸素を供給し生育の回復を促してください。

生育が遅れているほ場への窒素追肥は、生育回復後の過剰生育や倒伏の原因となるため控えてください。

梅雨に入り葉いもちの感染が心配されるので、病害虫防除所のホームページの BLASTAM(ブラスタム)を参考に、ほ場を巡回して早期発見・防除につとめてください。

また、高温年次は紋枯病が発生しやすいので、葉いもちと併せてほ場を巡回して早期発見につとめてください。

斑点米カメムシ対策として、ほ場周辺のイネ科雑草の草刈り等を継続して実施してください。

詳しい内容については、「こおりやまの米」通信(Vol.3,4)を、参考にしてください。



ブラスタムQRコード

6月20日生育調査結果

品種	地区	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (葉)	葉色値 (カラスケール値)	葉色値 (SPAD502値)
コシヒカリ	田村	5月4日	44.2 (108)	315 (74)	8.9 0.3	4.8 (0.8)	41.3 0.2
コシヒカリ	三穂田	5月13日	38.6 (116)	419 (140)	7.6 (-0.4)	4.8 (1.0)	44.4 (1.0)
コシヒカリ	富久山	5月15日	47.4 (113)	240 (118)	10.1 (3.2)	5.5 (1.4)	48.1 (9.3)
コシヒカリ	日和田	4月30日	43.0 (110)	451 (130)	9.9 (1.9)	5.0 (0.6)	45.2 (3.8)
ひとめぼれ	熱海	5月20日	39.1 (128)	209 (72)	7.5 (0.9)	3.8 (-0.1)	38.2 (0.3)
ひとめぼれ	喜久田	5月13日	33.4 (107)	322 (118)	8.8 (1.6)	4.5 (-0.2)	45.9 (3.3)
天のつぶ	三穂田	5月14日	39.5 (104)	340 (118)	7.4 (-0.4)	3.9 (-0.2)	50.1 (6.9)
ふくひびき	喜久田	5月27日	31.6 (135)	119 (93)	6.1 (0.5)	4.0 (0.0)	36.7 (6.1)
里山のつぶ	湖南	5月18日	33.8 (119)	293 (104)	7.5 (0.9)	4.0 (-0.3)	40.4 (2.9)
直播天のつぶ	喜久田	5月11日	27.6 (101)	120 (63)	5.5 (0.0)	4.0 (-0.1)	- -

* ()内は平年比(%)又は平年差

* 「コシヒカリ」(三穂田)は前年比(%)又は前年差

* 「直播天のつぶ」は移植日の欄は播種日

熱中症に注意してください！

近年、温暖化により気温は上昇傾向で、全国的に農作業中の熱中症による死亡事故が増加しています。農作業時には、熱中症に配慮して作業するようにしてください。

1 熱中症の起こりやすい条件

(1) 気温が高いとき

一般的には、最高気温が25℃を超えると熱中症患者が発生し、30℃を超えると熱中症による死亡者の数が増えはじめるといわれています。

(2) 湿度が高いとき

気温が低くても湿度が高いと、汗が蒸発しにくくなり、熱中症のリスクが高くなります。例えば、気温が25℃以下でも湿度が80%以上ある時は注意が必要です。

(3) 日差しが強いとき

晴れた日は、直射日光や地面からの照り返しが熱中症のリスクを高めます。照り返しは、コンクリートやアスファルトでは強く、芝生や土では弱い傾向があります。

(4) 風が弱いとき

風が弱い時は、汗をかいても体にまとわりついて蒸発しにくくなります。その結果、体温を下げる効果が低下し、熱が体にこもりやすくなるので危険です。

(5) 急に暑くなったとき

熱中症は真夏だけでなく、急に暑くなった日や暑くなり始めの時期にも発生します。体が暑さに慣れていない梅雨の合間や、梅雨明け直後は要注意です。

2 農作業中の熱中症対策

(1) 計画的に作業してください

日中の気温が高い時間帯の野外作業は極力避け、どうしても必要な場合は帽子をかぶり、作業時間を短くしてください。

(2) 水分・塩分補給の時間を確保してください

のどが渇いていなくても、20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給をしてください。

(3) なるべく2人以上で作業してください

なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認してください。

(4) ビニールハウスや畜舎も注意

炎天下でない施設内も高温多湿ならリスク大。風通しをよくするなどの対策をしてください。



3 熱中症の症状と対応

(1) 現場での応急処置で対応できる軽症

- ア めまい、立ちくらみがある
- イ 筋肉のこむら返りがある（痛い）
- ウ 拭いても拭いても汗が出てくる

⇒ 応急処置

- ・ 涼しい場所へ避難し、服をゆるめ濡れタオル等で体を冷やし、うちわ等であおぐ
- ・ 水分、塩分を補給する

(2) 病院への搬送を必要とする中等症

- ア 頭がガンガンする（頭痛）
- イ 吐き気がする・吐く
- ウ 体がだるい（倦怠感）

⇒ 医療機関へ

- ・ 服をゆるめ体を冷やす
- ・ 水分、塩分補給（吐き気がする・吐く場合は厳禁）
- ・ 医療機関で受診

(3) 入院して集中治療の必要性のある重傷

- ア 意識がない
- イ 体がひきつける（けいれん）
- ウ 呼びかけに対し返事がおかしい
- エ まっすぐに歩けない・走れない
- オ 体温が高い

⇒ 救急車を呼ぶ

- ・ 救急車が到着するまで涼しい場所で体を冷やす
- ・ 意識がないのに無理に水を飲ませない

環境省熱中症予防情報サイト⇒

熱中症に関する各種情報が
閲覧できます。

